

第3学年 道徳科学習指導案

令和7年10月15日（水）第5校時

- 1 主題名 周りの人々への感謝 内容項目【 B 思いやり、感謝 】
- 2 ねらい 主人公の生徒会長としての責任を果たそうとするためにとった行動や相手が自分のことを大切に思ってくれている言動や行動について考える学習を通して、周りの人々の善意や支えがあって今の自分があることに気付き、感謝し、それに素直に応えようとする態度を育てる。

教材名 「忘れていたこと」（出典：彩の国の道徳「自分をみつめて」埼玉県教育委員会）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容について

本時は、内容項目「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。」に関するものである。

何もかもが便利になっている。スイッチを入れるだけで瞬時に世界とつながれたり、スーパーに行けば何でも容易に手に入ったりする。感謝の気持ちは、有難いという思いをもたなければもつことができない。人にしてもらったこと、そこにあることに有難いと思うか、当たり前と思うかで気持ちの芽生えが変わってくる。子供たちの周りはその“当たり前”が多く存在しているが、その“当たり前”の先を想像している生徒が少ない。人間は一人では生きていけない。多くの仲間や周りの支えや助けがあるからこそ、日々の生活や現在の自分があることに気付き、好意を有難いと感じられることや素直に感謝を表現しようとする態度を育てることが大切である。

中学生の時期は、思春期に入り、感謝しつつも、その気持ちを素直に伝えることがうまく表現できないことも多い。自分の気持ちを素直に相手に伝えることの恥ずかしさや行動に移すことの難しさに直面する時期でもある。

指導に当たっては、単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということをしっかり自覚できるよう、幅広い世代や異性の多様な見方や考え方に理解を深め、自分のことを大切にしてくれる言動に気付き、感謝の気持ちを表現できる態度を育てたい。

（2）これまでの学習状況及び生徒の実態について

（略）

(3) 教材の特質や活用方法について

主人公の宏は生徒会長として文化祭を成功させようと、文化祭の準備において全てをまとめる立場である。生徒会長としての責任感から準備が遅れている装飾部担当の咲紀を激しく責めてしまう。文化祭前日、「自分だけで文化祭をつくっているなんて思うなよ。」と生徒会副会長の拓海のひと言で、はっとする。その後、埼玉県の人に関する新聞を作成している中で塙保己一について調べるうちに多くの生徒の協力と支えによって生かされている自分に気付く。

本教材を通して、主人公の気持ちの流れに十分に共感させることで、自身の経験と結びつけさせ、当たり前を過ごしている中にも、多くの人の思いや努力の上にあることに気付かせたい。

そのために、主人公や周りの気持ちの変化などを視覚化し、分かりやすくなるよう ICT 機器を活用した授業展開を行う。また、ペア活動や生活班での話し合い活動を活用し、考えを共有し深められるようにする。

今後、進路選択が本格的に進み、個人の思いに偏り、周囲の思いにまで考えが及ばなくなりやすい時期になるが、当たり前を感謝し、その思いを表現できる生徒を、教材を活用した話し合いを通して、育成していきたい。以上のことから、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点☆評価の視点	時間
導入	1 道徳的な問題について話し合う。 事前アンケート ・あなたの“当たり前”とは何ですか。 (普通にできていることは何ですか。) ・みんなが挙げてくれた普通にできていること、それって本当に当たり前のことなのか？	・毎日ご飯が食べられる。 ・部活をする。 ・友達と遊ぶ。 ・推しのグッズが買える。 ・ライブに行ける。 ・携帯を使っていつでも動画が見られる。	・ねらいとする道徳的価値について、問題意識をもてるようにする。 ・日常生活を想起させ、こうして今を過ごしていることの有難さを実感できるようにする。	5分
展開	2 前半部分の範読から、登場人物の気持ちを考える。		・登場人物について相関図を表示しながら確認し、教材内容にスムーズに入れるようにする。	30分

	(1) 文化祭まで2週間前の宏はどんな気持ちですか。 〈補助発問〉 ・副会長、拓海は宏に対してどんな気持ちだったと思いますか。	・記念の年だから、張り切っている。 ・自信满满 ・宏のことが心配 ・ちゃんと支えてあげなきゃ	☆宏の立場、他の生徒の立場、両方に立って多面的、多角的に考えを深めている。 ・ICT 機器を活用し、全体に表示し、共有する。 ・2択にすることで自分の考えを表現しやすくする。 ・選んだ理由も共有する。 ・気持ちが比較できる枠を作り、見やすく掲示をする。	
	(2) 文化祭まで3日前となった宏はどんな気持ちですか。	・焦っている。 ・イライラ ・なんで指示したことができないのか。	・生徒会長としての責任を果たそうとするために、まわりを責めてしまう宏の気持ちに共感させる。 ・ICT 機器を活用し、クラスの支持率を比較する。 2週間前と3日前の気持ちの比較から、拓海の気持ちを深く考えさせる。	
	〈補助発問〉 ・わざわざ言わなくてもいいし、怒らなくてもいいのに、あえてそういう行動を取った拓海は宏にどんな気持ちがあったと思いますか。 3 後半部分を範読し、登場人物の気持ちを考える。	・協力してくれているみんなに気付いてほしい。 ・頑張っていることを知ってほしい。		

終末	(3) 会長の言葉 「今日はいよいよ文化祭当日です。みなさんが楽しめるように準備をしてきました。ぜひ良い思い出にしてください…」に、どんな言葉を追加しますか。 <u>ペア活動</u> 〈補助発問〉 ・余裕があったから他の部署から手伝いを派遣することができたのかな？ 手伝うのは当たり前？ 〈中心発問〉 (4) タイトルにもなっている「忘れていたこと」ってなんだったのだろう。 <u>個人で考える</u> <u>生活班で共有する</u>	・たくさんの人たちのおかげです。 ・ありがとう。 ・感謝しています。	・まずは、自分の考えを整理したのち、ペア活動を取り入れ、意見交換しやすい環境を作る。 ・周りの人の支えに気付き、感謝の気持ちを表そうとする宏の言動や行動を考えさせる。	10分
	4 振り返り 今日の授業で考えたことをまとめる。	・今まで当たり前と思っていたことにも感謝したい。 ・実行委員などに協力していきたい。	・導入で取り上げた“当たり前”について触れ、話を深めさせる。 ・自分の考えを整理しながら記入し、自分の考えをまとめさせる。 ・周りの支えや思いに支えられていることに気付き、感謝を言葉や行動で相手に届けるようにさせる。 ・ICT ツールを活用し、様々な考え方があることを共有する。	
			☆周りの人々の善意や支えに感謝し、自分との関わりで考えている。	5分

5 他の教育活動との関連

学校行事	5月：体育祭 6月：修学旅行 10月：合唱祭に向けた取組
各教科	保護者へ感謝の手紙作成
事後指導	本時の概要や生徒の記述内容を Classroom（タブレット）で紹介
家庭との連携	家庭でも閲覧可能なので、話題にしてもらう

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・宏とその他の生徒の思いを、それぞれの立場から多面的・多角的に考え自分の考えを深めている。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・周りの人々の善意や支えに感謝し、自分との関わりで考えている。

7 板書計画

- ・感謝の気持ち
- ・周りの支えがあってできたこと
- ・仲間の有難さ

協力に感謝
 ・ありがとう
 ・みんなのおかげです

会長
のあいさつ文

「忘れていたこと」

<文化祭2週間前>

生徒会長支持率	90%
宏の気持ち	・張り切っている ・頑張ろう
拓海の気持ち	・心配 ・支えなきゃ

<文化祭3日前>

生徒会長支持率	40%
宏の気持ち	・イライラ ・焦り
拓海の気持ち	・協力してくれるみんなに気付いてほしい。

登場人物



生徒会長 宏
 大きい行事を任された。



副会長 拓海
 生徒会長をバックアップしている。